



懇談会の席で恩師の橋本先生を囲んで

同窓会 だより

— 第 4 号 —

平成7年9月10日発行
 鶴岡学園短期大学同窓会
 札幌市南区藤野400番地

学校法人
 鶴岡学園本部事務局内
 TEL (011)592-7636
 FAX (011)592-7636

平和への祈り



会長 北崎 昶子

〈食物栄養学科3期〉

今年も阪神大震災に始まり、再び冷害を心配されるこの夏ですが、ここに来て暖かく天気の良い日が続き愁眉を開くおもしろいこの頃でもあります。この一年皆様お変わりなくお過しでしたでしょうか。昨年は役員改選の年にあたり、再び会長の任にあたらさせていただきました。微力ではありますが新役員共々同窓会の為に、又母校と同窓会を繋ぐパイプとして、その役目を果たすよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。母校を離れて数カ月の方から約半世紀の方まで年令層の厚い同窓の方々と擁する私達の会ではありますが、時には母校を尋ねてみるのもよろしいでしょう。藤野、恵庭、両校舎とも素晴らしい環境にあり、その中で若い学生の飛躍ぶりを御覧になった時、改めて母校に対しての愛着も一入かと思えます。四年生大

学への準備も進められており、この四月より古瀬卓男前学長がその重大な任にあたられ、浅川修二教授が学長に就任なさっております。お二人を中心にしたチームワークで一日も早く四年生大学への夢が実現することを願い、何かお力になれることがあれば惜しみなく協力していきたいと思えます。本年も新たに五七八名の方々をその幹に会員として継ぐことが出来ました。同窓会の繁栄が延びては母校発展の一助となることを信じ、どんな風雨にも耐えて折れることのない枝を繁らせていきたいものです。幸い年間行事の一つとしての会報を毎年皆様にお届けすることが出来るようになりました。全国津々浦々にちらばる会員の皆様から沢山のニュース、活動の様子などお寄せいただければ益々面白く、又会員相互に密着した内容の濃いものになるのではないかと思います。

今年には戦後五十年を迎えます。我々の住むこの地球上のどんな国も平穏で平和であることを願いつつ、母校の益々の発展、そして皆様の弥増すお幸せと御健康を心よりお祈りし、御挨拶にかえてさせていただきます。



学長就任にあたって

北海道文教短期大学

学長 浅川修 二

古瀬前学長の任期満了並びに大学設置準備委員長就任に伴い、平成七年四月一日付で新しく北海道文教短期大学学長を拝命いたしました浅川修二でございます。宜しくお願い申し上げます。

北崎会長を始め、同窓会役員並びに会員の皆様には、常日頃本学の運営に多大のご協力を賜わっております事を先づもって衷心より感謝申し上げます。

お蔭様で本学も昭和三十八年の開学以来一万二千名余の有為な人材を社会へ送り出すことが出来、これら卒業生が現在社会の各方面で活躍しております。一方本学も三学科と多数のコースを有する総合短期大学としての形態を整えるに至り、この機会に校名を「北海道栄養短期大学」から平成六年度からは「北海道文教短期大学」へと変更して新たな飛躍を目指して再出発をした次第であります。

入学式でも学生に申しましたが、私は人間教育・専門教育・職業教育の三位一体化を本学の教育方針とし、今後とも社会の変化、要請に応える取り組みを積極的に推進して参りたいと考えております。

「変化の時代」と言われる現代においては、大変多くの教育課題が大学に課せられ、それらの課題に対応できる能力を備えた人材の育成が求められています。情報、国際、環境、地域、消費者、健康・医療等の各教育について

本学では、可能な限り、教育課程に取り入れて学生の教育に万全を期しております。特に、人間教育の重要性を考え、教員と学生、学生同士の人間的交流を深めるためにいろいろな教育活動を行っております。これも教育の根本である「人間をつくること」の本質が稀薄になっていると思うからであります。

最後になりましたが、私は本学の同窓会と短大の連携を緊密化し且つ強化して行くこと、つまり同窓会活動を大学発展の経営戦略として極めて重要であると位置づけしております。そのためにも先づお互いにアイデアを出し合う場を積極的に持ちたいと考えています。

そのためには、大学の実情をお知らせすることによって会員の皆様のより一層のご理解とご協力を頂くようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

恩師の現況報告

職を離れて

高田千津子



昨年三月末日をもって、栄養短期大学生活文化学科の職を退任致しました。非常勤時代に入られると約30年間鶴岡学園にお世話になり、私の半生の教師生活の思い出の場になって居ります。

現況報告ということですので文字通りに書きますと、目下は自由人、全く何もしない(仕事を持たない)この上ない自由を満喫して居ります。半年ほど悩まされて、学校も休職させて頂いた膠原病も退職後二、三度発熱し関節が痛く動けないときもありましたけど、それすらも明日授業があるわけではない準備の必要もないと思えることは何とも言えない気楽さでありました。

私の家に白いキャンバスが何枚もあり絵の具も沢山あるので15年ぶりにまた油絵を描き始めました。しかしそれも誰に見せるためではなく、期日や内容に制限や制約があるわけでもなく、ひたすら絵の中で自分との対話、遊ん

でいるようなもので、こんな自由もあつたのかと自分でも驚いて居ります。

そのほか短歌や書道、音楽、外国人との会話サークルなど、一応カルチャーおばさんらしき勉強もしましたが、こちらの方は最近一寸飽きて(限界?)生活を变えようと思っております。

私に出来ることは少ないですが「どう生きるか」ということは「どう死ぬか」ということに繋り、そういうことが生活の命題になる年齢になったと思つて居ります。

21世紀も真近か、若い皆様の御活躍を期待して居ります。



6頁「人」の遠藤さんは昭和58年入学と同時に卓球部で活躍し、卒業後は男性社会とおもえる自動車教習所の指導員として、卒業生としてりっぱに活躍なさっております。

— 斎藤 —

支部だより

ホテルウーマンとして

後田 知美

〈生活文化学科26期〉

狩部
石支

私は現在、札幌京王プラザホテルに勤務しております。早3年が経ちました。初めはホテル接客等と意識が薄くホテルの中にはどのような仕事があるのかと不安でしたが、研修期間が終る頃には、自分には珍しい位の意欲が湧いていました。

今現場に立つと毎日がテストをしている様な緊張感の中にいます。現在私は、宿泊部ロビー担当というセクション、通称ベルガールをしています。

ここで少し仕事内容についてお話しようと思います。午前中は主にチェックアウトのお客様のケアを中心に、アウトした方の荷物預りや、早めに到着した方の荷物を預り、お部屋に入れておく業務、午後はチェックインを中心とした業務、あとは一日中通してインフォメーション的業務(市内案内、タクシー手配、北海道の観光案内、宴会時間や会場の案内、他)があります。ここに挙げたのは極々一部で、実際は細かい仕事がたくさんあります。重たい荷物も男性同様に持たなくてははいけ

ません。人間相手の仕事なので、精神的に辛いこともあります。そんな中、私を励ましてくれるのは、お客様からのお礼の手紙や、各部屋に置いてあるアンケートに書かれるお礼の言葉です。

私達のような仕事は、一生懸命働いても形として残るものがないので、その様なお礼の言葉をもらうと、とてもうれしく、励みになります。これからは、たくさんそのような言葉をいただける様に、頑張っていきたいと思えます。

楽しい学校、 愉快な学校

北支
道支



渡辺 健司
〈専攻科5期〉

私は『どっぷり』とまではいかないが、体のほとんど浸かっているのではないかと思われる田舎者です。というのも勤務先が田舎にあるので結局そうなってしまう。

現在私は道北にある天塩町(『てしお』と読む。『てんしお』ではないの)で注意。稚内まで約一時間、日本海に面している町で町人口より牛の数のほうが多い酪農の町です。最近家族ワークでお馴染みの某コンビニができて少しは町らしくなってきました(の

天塩小学校に勤務しています。素直な(?)子ども達と、とても親切で平均年齢が若い教職員に囲まれながら、今年でこの学校にお世話になってから三年目になります。

小学校に勤務しているので、給食センターなどの栄養士より子どもと接する時間も多く、また学校に勤務しなければ経験できないこともたくさんあるような気がします。

例えば毎週木曜日の六時間目に必修クラブがあるので、そのクラブの顧問というか指導補助という様な感じで子どもと一緒にクラブ活動をしています。今年度前期の私の担当は『パークゴルフクラブ』です。毎週子ども達と一緒に楽しんでいきます。後期は何をやるかとかまだ先のことを子どもみたくに考えている今日この頃です。その他にも色々な学校行事に参加させていただいています。

「子供達と共に 成長したい」

走支
網支



中村 博恵
〈幼児教育学科28期〉

栄養短大を卒業してから、早いもので三年半が過ぎようとしています。私

は卒業後地元に戻り、家から車で二十分程の所にある遠軽中央幼稚園に勤務しております。全園児数が七〇名、クラスは四クラスあり、私は三歳児十一名の担任をしています。少人数の幼稚園なので、子ども達も年齢差を関係なしに皆がとても仲良しで、年長の子とも達が年中・少の子どもたちをお世話するなど、ほほえましい姿をよく見ることが出来ます。クラスの子ども達も

元気で思いやりのある子ばかりで、私が元気なかつたり、具合が悪かつたりすると、「先生どうしたの?」「お菓を飲むとすぐ治っちゃうよ」等と言葉をかけてくれたりもします。そんな子ども達の純粹さや素朴さに触れていると、私までもが、子ども達の様な、豊かな気持ちになれます。

幼稚園の先生になってからは、つらい事や悲しい事も沢山ありましたが、感動したことやうれしかった事、楽しかった事も沢山ありました。それらの事は共に、学生生活では体験出来なかつた事ですが、そのような体験を自分の中で吸収しながら、子ども達と共に私自身も成長していきたいと思っています。

皆様、遠軽に来る際には中央幼稚園に寄ってみて下さい。私を見かけたら気軽に声をかけて下さいね。沢山の園児達とお待ちしております。

集 遠来の友

ハンジ精神を!

小野 敦子

〈食物栄養学科在学中〉

私が入学致しましたのが栄養短期大学の二期生、そして娘は文教短期大学の二期生として短大の節目に入学する事が出来ました。私の学校選びは人間として生きていく上で一番必要な事、それは「食」又どんな仕事をしていても「健康」が第一と考えると、栄養学を根本的に身につける必要があると思ったからです。

伝統のある学校も重味はあると思

ますが、日進月歩、変化するのと同じ様に栄養学もこれだいいと言う事はなく、若い先生も多くいらっしゃると言う事は飛躍もあり、教授、助教教授の人材もそろっていると伺い、文教短期大学にお世話になりました。我々が入学した時は全寮制で食事も自分達の当番でお弁当も作り、冬の朝など六時起きは大変でしたが、実際に就職してみると、すぐ実践出来るので、調理従業員

の方々とも包丁一本で仲良くなれたと言う事は今では学校に感謝しております。

その当時の事を話すと、時代がちがうと言われそうですが、他人を指導するには、自身が修得する事が必要不可欠でしょう。

娘にはいつまでも、やさしきと思いやりのある、いたみのわかる人間になってほしいと思います。

短大を卒業後、病院の厨房で特別食の調理を担当し、「食する」事だけではなく「栄養」の必要性を感じながら家庭に入った今、大学で学んだ専門的知識や技術を生かすことなく日々生活しております。そんな折、受験期を迎えた子供が以前から「食」に興味を持っていた事もあり将来男女の差なく社会



佐藤 博子

〈食物栄養学科3期〉

親子で学んだこと

開学以来、半世紀も過ぎ、卒業生も一万二千余名を数えそんな中で、留学生、親子で共学の人達に視点を置いて特集を組んでみました。

〈編集委員〉

を生きる為にも、自ら学んだ大学で専門的な教養を身につけさせたいと考えました。親子で同じ課程を歩んだ訳ですが、これからの社会では私が学んだ時代よりはるかに食に対して関心が深まりさまざまな問題が多くなっていく様に思います。短期の中で専門的な事を学生がどれだけ理解が出来るか又、更に深く学ぶ事で社会に出た時に対応して行ける状況も違ってくると思います。これからの社会生活を送るうえで自ら学んだ知識を少しでも生かせる様努力し厳しい状況に向った時でも積極的に取り組み他人からも信頼してもらえる様な生き方をして欲しいと願っています。

「食」について興味を持ち始めたのは、中学時代からでした。文教短大である栄養士の資格を取り知識、技術を生かしたい。そして社会の一員として貢献したいと考えました。今の時代は、男でも食物に関する知識を持つている事は大切ではないかと思えます。昔であれば、料理は女性がするものだと決めがちでした。最近では、女性の社会進出が目覚ましく、結婚してもほとんどが共働きであり、子供の世話など今



佐藤 彰仁

〈食物栄養学科30期〉

「食」

まで女性が行ってきた事を男性も出来なくてはいけない世の中になってきていると思います。特に毎日の生活の中で食生活は最も重要であると思えます。このような事から今は男でも食物について少しでも多くの知識、更に技術が必要であると考え文教短大を選びました。学校に要望する事としては、出来れば四年制大学になってほしいという事です。二年間では、教える側、教わる側両方にとって大きな負担がかかるのではないかと思います。楽をするために四年制にするのではなく、時間にゆとりがある事によって教わる側がより高度な知識、技術を修得出来ると思えます。勿論社会に出てからの自分自身の努力も大切です。将来は、短大で学んだ事を基礎にして社会に出ても信頼のある恥ずかしくない人間になりたいと考えています。

特 親子共学

娘よ！ チャ

小野 幸子

〈食物栄養学科 2 期〉

日本に来てから



李 宏宇
〈食物栄養学科 26 期〉

一九八八年五月来日、北海道栄養短期大学に入学したが、当時日本語がほとんどわからないため、卓球の練習から日常生活まですべて人に頼らなければならなかった。卓球に専念するために、渡部俊弘監督（現東京農業大学オホーツクキャンパス講師）の家にホームステイし、食事や洗濯も監督の奥さんに助けて頂いた。卓球の練習についても選手やマネージャーが私のために力を貸してくれた。学校の勉強は先生



校外実習では私の職場と一緒に親子料理教室を実施し、アシスタントとし

達が熱心に教えてくれた。皆さんの温かい応援のおかげで、在学中に全日本学生選手権を二連勝する事が出来た。

短大を卒業後、北陸銀行に入社してからは、午前中が人事部厚生課のお手伝いをし、午後は卓球部の練習に励んでいた。チームメイトと力を合わせて翌年には日本リーグ三部から二部に昇格することができた。二年余りの社会人生活では卓球以外のことについても多く勉強できた。

九二年七月には結婚のため退職した。結婚後は生活様式が大きく変わり、日常生活にも時間の余裕がもてるようになり、料理や読書をする事が多くなった。

九三年主人の就職に伴い北海道から奈良県に引っ越した。その後、奈良県

て活躍してくれました。又学校給食指導を効果的にする方法等、共通の話題で、ディスカッションも出来ました。これからはよりチャレンジ精神をもち何事も努力してほしいと望んでいます。

母の後姿をみて

私は幼い時から母の勤務先である給食センターについて行ったりして、仕事をしている後ろ姿を見ていました。人間にとって「食」は欠かせないもの

卓球協会の要請で、高校卓球部のコーチを引き受けた。これまでの選手の立場から指導する立場へ転換したことに、両者には大きな差異があることがわかった。如何に自分の技術を選手に伝授するかについて考えることは自分にとって、よい勉強となった。選手達の技術の進歩をみて大きな喜びを感じる。

小さい時から卓球に集中したため、勉強する時間が少なく、今、主人に教えてもらって、週に二回の卓球指導以外に、日本語やワープロの勉強をしている。中国には多くの日中合弁企業があり、将来このような企業で通訳などの仕事につくことが私の理想である。そのために、いま一生懸命に頑張っている。

という母の教えに従い、私も栄養士の技術を身に付けようと、母の母校である北海道文教短期大学を目指しました。入学して栄養士という資格を取得するには、沢山の授業や校外実習をこなさなければならず、その上、教員資格コースを選択しているのでこれにか

かわる授業、校外実習などがあり、不器用な私には、大変な試練でした。母の事を御存知の先生方には、私のマイペースさを見て、「本当にお母さんの血、混ざってるの？」とか、「きつとお父さんに似たのね」等と、私の心につきささる一言を頂きました。というふうに、私の後ろには、いつも母の影があり、私はプレッシャーをかかえ、短大生活を送っています。

今では校外実習三つのうちの二つの実習をこなし、自分でも精神的にしっかりしてきたかなと思います。

この短大に入学して、一人っ子の私は、小さい時から姉妹の様に接してきている母が、とても大きく、偉大でありました。そして私自身もいつまでもこんな風ではいけないと思っています。

いつか私も母の様な立派な栄養士になり、周りの人達に、「やっぱり幸子さんの娘ね」と言われる様になりたいと思っています。



昭和五十八年入学と同時に、卓球部に入部し毎日練習にあけくれ活動してりましたが、当時卓球部は全道的にも力のある選手がたくさんいて、大会には積極的に出場、優勝、準優勝は当然という時期でした。

そんな中で私は、あまり実力もなく、投げやり、かつ無責任な人間でした。しかも自分の行動、態度は棚にあげ、他人の批判は一人前、監督、



家政学科19期
遠藤庸子

コーチへの反感等々：相手の立場等まるで考えてあげる事の出来ない人間でした。そんな私ですから、卒業後も定職も無く、短期アルバイトをしたり自動車の登録事務員、トラックの運転手とさまざまな職を経験しました。現在は、札幌篠路自動車学校で指導員をしております。普通自動車、二輪、学科教習と教習生の指導にあたっております。

二十四才からこの仕事に就き、まもなく三十才を迎える年令に達しま

す。ようやく指導員という仕事は、教えられ、育てられ自分も成長して初めて本当の指導員になれるものだと気づかされました。

この仕事に就いていると、さまざまな職種、いろんな性格の人々と接する事になります。相手が何を考え、何を私に求め、何を悩んでいるかを一早く察し、いかに自分の「我」を殺せるかという事が問題になります。

私が指導員という仕事について、約二、三年位たった頃です。同僚の先生から次のように言われました。

「遠藤さんの生徒さんは皆、平均的に技能レベルは高いけれど、生徒さんの真の気持ちが伝わってきませんね。」当時はよくわからなかった事ですが、現在はわかる様になりました。

先生と生徒である前に一対一の人間関係にあるべきだと、以前は相手の気持ちを押さえつけ、ただ機械を動かすロボットを作りあげている様なものでした。(ただただ一所懸命になりすぎて、お互いの気持ちの尊重、意見の交換等相手の立場になって指導にあたる)この事を忘れていました。

「人は一人では生きていけない」という言葉の意味が、この頃ようやくわかりかけてきたような気がします。

今後とも皆さんの出会いがある事でしょう、常に感謝の気持ちで忘れる事のない人として、指導員として接していきたいと思っております。

全国的に私立の大学・短大の存立が危惧される時代にあり、わが母校の状況はいかがかと……。前号に続いて、今回も入試の状況と併せて就職状況を報告していただきました。
〈編集部〉

『本学入試・就職報告』

◆平成7年度の入試状況について

団塊世代の子供の大学入学時期も終り今や「ポスト団塊ジュニア」と呼ばれる世代が大学進学を中心になりつつあります。私立の大学や短大が「氷河期」を迎えていると言われるのは、18歳人口が平成3年度をピークに逐次減少傾向にあり場合によっては定員割れをおこし、その存立さえ危惧される時代になっていくからであります。

平成7年度の本学の入試状況は、平成3年度をピークに高校卒業生が漸次減少しているにも拘らず、本学への出願者は増加を続け、特に昨年は食物栄養、幼児教育学科でその傾向が著しかったと言えます。ただ本年は昨年に比し百六十名強の減少でした。こうした増加傾向は、全学的な学生募集の取り組みの他、少人数制のきめ細かな教育指導、学生指導と特に就職指導が社会や高校に高く評価された結果と考えられます。学科による出願者数の差はあっても、各学科とも学生の学力が上り高校では難易度の向上の著しい学校と見

ております。

平成8年度の学生募集と入試対策については進学校からの入学者を増やすよう各高校への働きかけを強化するとともに、生活文化学科では「簿記」を受験科目に入れ、商業高校からの志願者への配慮をしたことが大きな改正点です。

今後の学生募集については、18歳人口が減少する状況の中で優秀な学生を確保するためには、本学の特徴、イメージを明確にするつまり大学の個性化を図ること、「栄養短大」から「文教短大」への校名変更の周知徹底を図ることと総合短期大学としての形態を整え飛躍を遂げようとしていること、同窓会との提携を強力にし、学生の確保に努める方法の確立が緊急の課題と言えます。

◆平成6年度の就職状況と本年度の対策について

ここ数年のバブル崩壊後の産業・経済の不況と長期化・景気の低迷は厳しい雇用状況を招来し、その状況は一向

に回復していません。

概括的な捉え方ですが、過去3年間の短大女子卒の就職状況は別表のとおりで就職率は年々低下し、特に本道ではその傾向が著しく、卒業生の約3割が就職できずに積み残されました。本学の場合栄養系、幼児教育系の学科では、有資格者として専門職への就職率が約90%台を数年来維持しているもの、一般企業の事務営業等への就職は概ね80%台に止まっています。

本年度(平成8年3月)の就職見通しは依然として厳しい状況に変わりはありません。道内主要企業の採用計画によると採用予定数を今春実績より増やす企業は殆んどないのが現状です。こうした状況を踏まえて本学の就職対策は、就職委員会が中心となって希望者

同窓会事務局だより

◆新役員

- 会長 北崎 廸子(食3)
- 副会長 齋藤 道子(食1)
- 常任幹事 橋本美佐子(栄1)
- 長沢 愛子(食4)
- 中原 珠代(食23)
- 鹿内 真帆(生25)
- 竹本砂緒里(幼22)
- 渡辺 祐子(栄20)
- 北川 幸子(栄4)
- 石井 千草(幼14)
- 工藤 美香(食26)
- 山形 郷美(専2)
- 朝子(幼12)
- 潤(食27)
- 宮北 秀子(食4)
- 池田 嶋田 祐子(食15)
- 岡塚 美紀(幼16)
- 浅見 晴江(食4)
- 英子(栄6)
- 西野 英子(幼11)
- 市村 英子(栄6)
- 鈴木 栄子(栄15)
- 嶋田 祐子(食15)
- 啓子(家1)



短期大学女子卒業者の就職状況

卒業年次	卒業者数		就職者数	就職率
	全国	卒業者数		
平成4年3月	全国	210,671人	182,824人	86.8%
	全道	8,306	6,810	81.9
	本学	470	461	98.1
平成5年3月	全国	224,022	181,046	80.8
	全道	8,790	6,436	73.2
	本学	481	443	92.1
平成6年3月	本学	478	397	83.1
平成7年5月	本学	469	402	85.7

〈浅川学長資料による〉

全員就職を目標に企業訪問、求人活動の他学生に対する就職講座、模擬テスト、個人面接指導、作文指導等のきめ細かい指導を実施し学生自身の求職活動を力強く援助しています。

平成7年度予算

自 平成6年10月1日
至 平成7年9月末日

収入の部 (単位:円)

科目	金額	備考
前年度繰越金	6,742,551	
会費	8,625,000	6年度分 21名×15,000円=315,000円 7年度分 554名×15,000円=8,310,000円
利息収入	1,000	普通預金利息
計	15,368,551	

平成6年度決算

自 平成5年10月1日
至 平成6年9月末日

収入の部 (単位:円)

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	2,211,770	2,211,770	
会費	5,860,000	8,740,000	5年度分 28名×10,000円=280,000円 6年度分 564名×15,000円=8,460,000円
利息収入	1,000	1,160	普通預金利息
計	8,072,770	10,952,930	

支出の部 (単位:円)

科目	金額	備考
総会費	200,000	会場費等
卒業記念費	703,200	586名×1,200円
印刷費	1,500,000	総会の案内・会報印刷
通信費	2,500,000	総会案内、会報発送・電話代金・切手代 支部通信費・他郵送代
事務消耗品費	100,000	事務用品
会議費	800,000	支部長会・幹事会・会報委員会 常任幹事会
交通費	500,000	支部長会、会報委員会、幹事会、 常任幹事会の交通費
アルバイト料	800,000	名簿及び事務の整理
名簿整理費	500,000	名簿等の整理 (パソコンリース料・フロッピー代)
研修費	500,000	後援会、講習会の開催の為
予備費	50,000	
基本金積立	3,000,000	定期預金
次年度繰越金	4,215,351	
計	15,368,551	

支出の部 (単位:円)

科目	予算	決算	備考
平成5年度 総会及び 懇親会	500,000	107,324	[収入] 323,000円 会費 5,000円×56名=280,000円 写真代 1,000円×43名= 43,000円 [支出] 430,324円 会場費等 430,324円
卒業記念品費	668,400	685,980	555名×1,200円+消費税
印刷費	1,500,000	631,020	総会の案内印刷、会報印刷
通信費	2,100,000	1,833,615	総会案内・会報発送 電話代・切手代金
事務消耗品費	50,000	53,696	事務用品
会議費	800,000	250,599	幹事会・常任幹事会 会報委員会
交通費	500,000	95,000	幹事会、常任幹事会 会報委員会
アルバイト料	800,000	329,185	名簿及び事務の処理
名簿整理費	200,000	198,160	名簿等の整理 (パソコンリース料・フロッピー代)
研修費	500,000	25,800	ミニコンサート (お花代・調律代)
予備費	50,000	0	
次年度繰越金	404,370	6,742,551	
計	8,072,770	10,952,930	

平成7年度事業計画

- 一、同窓会名簿の作成
- 二、平成6年度卒業生への記念品贈呈
- 三、研修会(講演会、講習会、見学会等)の開催
- 四、会報の発行
- 五、支部の充実
- 六、その他

今度、同窓会事務局（札幌市南区藤野四〇〇番地・鶴岡学園本部事務局内）直通専用電話が架設されました。

☎（〇一一）五九二一七六三六番

ファックスも兼用になっておりますので、どしどしご利用下さい。

平成七年度 同窓会総会と講演会のご案内

平成七年度 総会は記念講演会終了後に行ないません。

◎日時 平成七年十月十四日(土)

◎場所 「ステーションホテル」

札幌市中央区北七条西四丁目札幌駅北口

電話（〇一一）七二七二二二一 一番

■記念講演会（午後三時～午後四時）

演題 「心のコントロールは可能か」

講師 寺久保 友哉氏

略歴 精神科医・作家

一九三七年生まれ、東京都出身、北海道大学医学部卒「オフィス街クリニック」院長、北海道大学在学中より北大季刊にかかわり小説を書き始める。北海道新聞文学賞受賞、四回芥川賞候補に推される。小説「恋人達の時刻」は映画化された。

※引き続き総会を行います。

■総会（午後四時三十分～午後五時三十分）

※例年より時間的に早く終了しますので終了後の時間は、同期会、クラス会にあてるのも一考かとおもいます。

同窓会だより「表題」募集

◆おかげ様で第四号の同窓会誌を発行することが出来ました。

◆今後共努力して発行していく予定です。

◆ついでには広く皆様から同窓会だよりの「表題」を募集いたします。

◆同窓会誌にふさわしい名前がありましたら、事務局迄ご連絡下さい。

◆原稿の方もご投稿、スタッフ一同お待ちしております。

道東支部

本学と合同懇親会

道東支部は、来る九月二十日(休)、午後六時より、北見東急ホテルに於いて、学長が出席しての「本学の現況報告会と懇親会」を行います。会員の皆様の多数の出席をお待ちいたしております。連絡は支部長の後藤田倫子さんの方へ、電話（〇一五七）二四一七〇一 一番、同窓会より会長、その他の役員も出席する予定です。

平成八年度入試予定

帰国子女、外国人留学生、転入学生を対象とした特別入試もございます。詳しくは短大入試事務局へ。

学 科 等	出 願 期 間	試 験 日
推薦 食物栄養学科 生活文化学科 幼児教育学科	平成7年 11月16日(休) ～11月28日(火)	12月2日(土)
I 期 食物栄養学科 生活文化学科 幼児教育学科 別 科 科 (社 会 人)	平成8年 1月11日(休) ～1月26日(金)	2月2日(金)
II 期 食物栄養学科 生活文化学科 幼児教育学科 別 科 科 専 攻 科	平成8年 2月9日(金) ～2月24日(土)	3月3日(日)

編集後記

◆第四号の企画会議で、若いメンバーからドンドン新企画が出る。纏め役が、どこ迄、表現出来るか、B判からA判サイズになり、文字も大きくなる。

◆それにも増して、なによりも今回は、原稿依頼した方々が心よく引き受け、原稿集まりがよかったこともあり、編集作業もしやすかったのです。メンバーも段々と慣れも手伝って、作業が速くなりました。

◆尚紙面の都合上、皆様方の原稿一部割愛させていただきましたことをお許し下さい。

今後皆様のご活躍を祈念します。ご協力ありがとうございました。

編集委員

- 北崎 廸子・梅本久美子
- 斎藤 道子・出島 秀子
- 石澤恵美子・西家 史恵
- 松木 寛美・工藤 美香

発行所 鶴岡学園短期大学同窓会

会長 北崎 廸子

編集委員長 斎藤 道子

札幌市南区藤野四〇〇番地

電話（〇一一）五九二一七六三六番

（題字は高橋由季（栄13期）による）